

## ■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長  
白井 信文



### ■ 避難所は大丈夫か

10月8日、市民館で、静岡大学池田教授の「男女双方の視点で災害に強い地域づくりを」と題する講演会がありました。池田教授は被災現場や避難所の実情に大変詳しく、これまで、あまり認識のなかった問題点に気付かされました。

一番ショックだったのは、被災地も避難所も社会の一部で、日ごろ社会で起きている事件（盗みや性犯罪など）は、被災地や避難所の中で起きてもおかしくないとの指摘でした。

「被災者が肩を寄せ合い支え合っているという光景は、望ましいものではあっても、常に現実がそうであるわけではありません。」

残念ながらそうなんです。そのことにも関係しますが、避難所ではいち早く自治組織を作ること、大部屋一つではなく近くに別室も準備すること、避難指示を出す前に、各避難所に最低1名の保健師か看護師を配置する必要があること等が指摘され、私は本市の災害対策本部長として、身に染みて参考になりました。

### ■ ふるさと納税への<sup>かんげん</sup>諫言

10月17日、三原市で中国市長会の役員会が聞かれ、当面する基礎自治体の抱える行政課題について、熱心に議論されました。国からも総務省のほか関係省庁から出席がありましたが、少し気になった点についてご報告します。

一つ目は、お馴染みの「ふるさと納税」についてです。出身地に限らず全国どこへでも寄附ができ、寄附額のうち2,000円を除く全額が自分の住んでいる自治体に納める本来の住民税から控除されるとあって、豪華な返礼品目当ての

「ふるさと納税」が全国各地に氾濫し、自治体によっては返礼品対応に追われ赤字を出しているところが沢山あるそうです。

「返礼品にも節度を！」

国から自制心を求められました。もっとも本市は、これまでやや制度の趣旨に純粹であり過ぎたきらいがあるような気もします。本市への「ふるさと納税」も最近はやや右肩上がりですが、アンケートの動機欄には、ずばり「返礼品に興味があった」と書かれています。節度をわきまえ、しかし寄附してくださる方への心遣いも大切であることを、改めて噛みしめています。

二つ目は、国税の歳入が芳しくなく、来年度の地方交付税はかなり厳しくなりそうだと報告でした。景気の回復が日銀や政府の努力にもかかわらず思わしくなく、国税が下降気味だということです。加えて東日本、熊本の災害など、大規模災害が後を絶ちません。かなりの国費が<sup>つぎ</sup>込まれたことでしょう。本市も気を緩めることなく、みんなで力を合わせ、非常事態を切り抜きたいものです。

